

GAMADASHIMON

益城の  
がまだしもん!

—vol.11—

は やまゆうすけ  
葉山悠介さん  
(古閑)

# 舞台で輝く実力派ダンサー

始めたきっかけは

〇〇ザイル

ようやく復興と

向き合える自分に

下段写真左から/  
演劇と映像、ダンスで復興を表現した県立劇場の舞台(同劇場提供)/葉山さんのパフォーマンス(ステージ/ファッションショー・本人提供)

熊本県立劇場で3月に上演された舞台『水と火と木、そして再生の物語』。その舞台に、オーディション選抜ダンサーの一人として出演したのが葉山悠介さんです。

ダンスを始めたきっかけを尋ねると、「14歳の時にテレビで見たオカザイルに衝撃を受け、そのコピーから始めました」と笑顔で話してくれました。高校入学後ダンス教室に通い始め、大きな舞台にも出演。大学に入ってもダンスを続けていました。

「大学生の頃、最初の挫折を迎えたんです。すると、そのタイミングでダンスの振りの依頼があり、続けることになりました」。その後も挫折のたびに、それまで出演した舞台で関わりを持った人から出演依頼があるという偶然が続き、現在もダンスを続けられているそう。「皆さん私が大事にしている人たちです。感謝しかないですね」。

大学を卒業した平成28年、葉山さんは22歳でアメリカ・ニューヨークに留学しました。言語の壁は、「ダンスを習うのに必要な言葉のテンプレをめちゃくちゃ作りました(笑)」でクリア。1年間の留学を終え帰国後には、自ら企画をしたり、ダンスレッスンをを行うなど、本格的にダンスを仕事にしました。

しかし、葉山さんの胸にはある思いが…。「ニューヨーク到着の4日後に熊本地震が発生したんです。発災時益城町にいなかった自分が、どのように復興に携わるべきか、ずっと悩んでいました」。

そんな葉山さんの心を決めさせたのが、冒頭の舞台。熊本の復興がテーマのこの舞台への出演で、復興と向き合う心構えができました。「これまでやってきた舞台やイベントを益城町で開催したい。そして町の人の心が踊るような機会を作りたいと思います」。

葉山悠介さんの活動  
状況はここでチェック

